



足拍子 クロガネの頭中尾根～東尾根

佐貫

【日時】 2007年1月13日(土)～14日(日)

【メンバー】 佐貫(L)、大野、棚橋、浅井

2004年の2月に北尾根に登ってから、「クロガネの頭三部作(北尾根、中尾根、東尾根)」を全部登ろうというつもりで中尾根と東尾根にはそれぞれ1度ずつトライした。しかし力不足と大雪のためにいずれも途中までで引き返してしまっていた。今回は宿題を一気に片付けるべく、時間を食う要因であった往復の林道ラッセルにスキーを使用して時間短縮を図った。いつもの越後トリオに今回加わったのは浅井さん、新鮮な組み合わせで楽しみだ。

朝、あらかじめ駐車をお願いしてあった「体験工房大源太」に到着し周囲を見回すとやはり雪は少ない。いつもならキックステップで背丈以上もある雪壁をよじ登るところから始まっていたのに、今回は膝くらいの高さしかない。イヤな予感もするが気を取り直してスキーを履き歩き出すと、当然のことではあるがワカンより遥かに早く、今まで頑固にスキーを使わずに来ていたことが馬鹿馬鹿しく思えるほどだ。足拍子川沿いの林道を進むこと1時間半で経木ノ沢出合に到着し、ここでスキーをデポする。記憶と地形図を頼りに東尾根末端の雪原状のところを早速ラッセル開始、中尾根の取付まで来ると前に来た時にはすっかり埋まっていたコマノカミの沢には滝が出ていた。中尾根を登り始めるが、灌木が目立つ急登のため息が出る。

佐貫「ここまで藪が出ていようとは…」

大野「…思っていましたけど…」

石楠花や矮小灌木を踏みつけながら半ば木登りのようなラッセルが続く。すると見覚えのあるP1基部に出た。ここは前回も苦労したところだ。今回はリーダー責任で登らなくちゃいけないかなーと思って眺めていたら大野さんが後ろから来て登るといので有難く任せてしまった。下部はまだしも上半分はかなり垂直に近い木登りになり、自分で登っていたらかなり怖い思いをしたと思う。セカンドで上がった棚橋さんがその上のナイフエッジを登り、30mでロープをFIXして浅井さんが続く。ここは前回リードした時にひどいスカ雪で苦労したが、今回はさほどでもないようだ。大野さんは空身でリードしたので一度荷物を取りに戻り、再び登っていった。4人いたのでこの通過には何だかんだと2時間近くかかってしまったが、目標の幕場であるホ

テルクロガネはすぐ上であることが分かっていたのでさほど気をもむことはなかった。

ホテルクロガネの天場は、少雪のせいか思ったよりも整地する余地がなく、4人天ギリギリの狭さ。しかし快適だ。越後クラブはあまり山行にビールを持っていかないが、今回は浅井さんを厚くもてなし是非とも入会してもらおうと3人とも持参。ここまでの感想を尋ねると、「たまにはこんな泥臭い山行もいいですね」とのこと。「たまには」と「泥臭い」は聞かなかったことにする。ここまでの湿雪も相当ひどかったがテントの中の濡れ具合もかなりのもので、浅井さんがいつ「これはひどいですね…。」と言いださないかと内心ヒヤヒヤしたが、特にそんな気配もない。持参のスポンジでさりげなくテントを拭う浅井さんであった。

日曜は朝一番から顔に雪がつきそうな急雪壁の塹壕掘りで始まる。大野さんが先頭でラッセルした箇所はひときわ急な藪に雪が積もっていて、荷物を背負ったセカンドの棚橋さんがひと苦労。雪をほとんど全部叩き落してシャクナゲの網をかいくぐり後に続いた。1時間半ほどでとりあえずひどい藪はなくなり、代わりに雪壁が続く。尾根を2度踏み替えて東尾根との合流点に着いた。ここから少し登るとクロガネの頭である。ちょうど10時、思ったよりラッセルに時間がかかってしまった。足拍子を背景に写真を撮り、東尾根の下降に入る。



ラッセルは深い



クロガネの頭にて

覆われた岩（高さ5m×2回）になっていた。



前はこんな所をどうやって登ったのか全く記憶にない…不思議に思いつつ木にしがみついて下りる。まるで沢登りである。最後はうるさい灌木地帯ではまったりしながら何とか尾根末端にたどり着き、うっすらと残る前日のトレースをスキーデポ地点まで戻った。帰りはほぼ下り勾配なので、1時間少々で旭原に帰着。無事、三部作が完結し、宿題を出し終えた気分である。

「こんな標高の低い藪尾根が、惚れ惚れするようなナイフエッジに！」というのが藪雪稜の魅力で、ラッセルを厭わずそういうところに通うのが自分にとっての厳冬期の楽しみだ。しかしこの雪の量…藪尾根が本気で「変身ポーズ」を取ってくれる日は来るのだろうか？

【行程】 1/13 旭原 (7:30) ～経木ノ沢出合 (9:00～10)～クロガネの頭中尾根取付 (10:35)～ホテルクロガネ (14:30)

1/14 出発 (6:30)～クロガネの頭 (10:00～10)～経木ノ沢出合 (12:50)～旭原 (14:00)

【地形図】 茂倉岳